

第1学年 国語科学習指導案

1組 計26人(男子15人 女子11人)

指導者 豊重 真奈美

1 単元 「こえにだしてよもう」(教材「くじらぐも」光村1年下)

2 単元について

(1) 単元の価値

本学級の子どもたちは、これまでの学習で、場面の様子や登場人物の気持ちを想像したり、言葉のまとまりやリズム、声の強弱に注意しながら楽しく読んだりしてきた。

そこでここでは、お話に出てくる「子どもたちとくじらぐも」との動作や会話文に目を向けながら、それぞれの登場人物の気持ちや場面の様子を想像し、声に出して楽しく読むことをねらいとした単元を設定した。

教材「くじらぐも」は、体育の時間に校庭で体操をしていた1年生と空に現われたくじらぐもとの交流を描いたファンタジー作品である。この教材は、現実と空想が入り交じっており、読んでいるうちに子どもたちが登場人物と同化し、楽しんで読み進めていけると考える。そして、想像を楽しんでは声に出して読み、声に出して読んではまた想像を深めるという活動を繰り返しながら、内容理解が深まっていく教材であると考え。

本単元で、子どもたちは、「子どもたちとくじらぐも」の動作や会話文に目を向けながら、それぞれの登場人物の気持ちに寄り添って音読させることで、場面の様子を豊かに想像することができる。また、子どもたちとくじらぐもの位置関係に気付いたり、動作化を取り入れ登場人物になりきって考えたりすることで、声の大きさや読む速さなどを意識して読むことができる。その上、リズムカルな会話文や繰り返しの表現に着目し音読することで、声に出す楽しさや声を合わす気持ちよさを感じ取ることもできる。さらに、自分の見つけた雲から自由に発想させ、それを絵や吹き出しにかくことで、表現の楽しさを味わうことができる。

ここでの学習は、読みの力を生かして、登場人物の心情を受け止めたり、読んで好きなところを見つけ読書の楽しさを深めたりする12月教材「ずうっと、ずっと大すきだよ」の学習へとつながっていく。

(2) 単元の目標

物語に興味をもち、場面の様子を想像しながら、楽しく読み進めようとしている。

【国語への関心・意欲・態度】

雲とお話をしたいことを自由に発想し、絵や吹き出しにかくことができる。 【書く能力】

会話文や繰り返しの文に着目しながら、登場人物の様子や気持ち、場面の様子など、挿絵も手がかりに、想像を広げながら読むことができる。

登場人物の様子や気持ち、場面の様子を声の大きさや読む速さで表現することができる。

【読む能力】

主述の関係や時間の経過、助詞「も」「が」の使い方に気をつけながら、正しく読んだり書いたりできる。 【言語についての知識・理解・技能】

(3) 子どもの実態

ア 教科全般に関する実態

本学級の子どもたちは、学習に対する興味・関心が高く、楽しんで学習に取り組んでいる。発表意欲もあり、自分の考えを進んで発表している。しかし、自分の発表だけに満足している姿が見られるので、教師が意図的に取り上げながら、友達の発表を意識して聞くことができるように指導しているところである。

平仮名の読み書きは、ほとんどの子どもが定着している。また、声に出して読むことを楽しんでいる子どもが多く、教室に掲示してある「今月の詩」を、リズムをつけたり、手拍子や足踏みを入れたりしながら読んでいる子どももいる。想像したことを書いたり、自分の考えを書き表したりする活動は、吹き出しに短い言葉で書き表すことができるようになってきている。

イ 本単元の内容に関わる実態

声に出して本を読むことは好きか。	好き (23)	嫌い (3)
お話に合わせて、劇をすることは好きか。	好き (23)	嫌い (3)
空を見て、雲を眺めることがあるか。	よく見る(18)	あまり見ない(8)

本学級の多くの子どもたちは、国語科の学習が好きである。読むことの学習については、自分の読みに工夫を加え、他学年に「お話宅配便」として音読発表会を行い、声に出して読んだり、学習したことを誰かに伝えたりする活動を楽しんで活動する姿がみられる。読みの実態としては、初めて見た文章でもすらすら読んだり、大きな声ではっきりと読んだりできるようになってきている。また、会話文に気を付けて楽しんで音読している子どもたちが多い。しかし、句読点や読む速さに気を付けたり、語や文のまとまりとして読んだりすることが、まだ十分とは言えない子どももいるなど、個人差が大きい。物語の内容を楽しみ、登場人物の気持ちを考える活動も経験してきているが、叙述から離れて、自分の想像で語る子どももいる。

読書に対する興味・関心は高く、多くの子どもたちが図書室をよく利用し、読んだ本について話したり薦め合ったりしている姿が見られる。教師が読み聞かせや紹介した本は、学級の子どもたちが順番で借りている。楽しい本に出会ったら、同じ作者の本を探して読んだり、「シリーズ読み」をしたりしている子どもも数名いる。読んでいる本の傾向としては、物語を中心とした絵本がほとんどである。

日常生活の中で、多くの子どもが空を見上げ、雲を見ているようである。そして、雲の形を身近な動物や食べものに当てはめて話をすることが多い。しかし、想像を働かせて、雲をいろいろな形に見ることのできない子どももいる。

3 指導に当たって

本単元では、子ども一人一人が学ぶことを楽しむことができるように以下のような点に留意して指導していく。

① 研究の視点1 (子ども一人一人が読む目的をもち、読みたいと感じる授業づくり)

- ・ つかむ段階で、実際に外へ出て、空を見ながら雲の形や動きを観察し、いろいろな形の雲があることに気付くようにする。いくつかみんなで同じ雲を見て、何の形に見えるか意見を出させることで、雲への興味をもたせ、「くじらぐも」のイメージを膨らませるようにする。単元の最後に、自分の見つけた雲やこんな雲があったらいいのになあと想像した雲でお話を作る「くじらぐもにのってでかけよう」を行うことを知らせ、目的をもって読み進められるようにする。

② 研究の視点2 (子ども一人一人が自分の読みの高まりを実感できる授業づくり)

- ・ 深める段階で、登場人物に同化できるように、場面に合わせた舞台を作成し、動作化と読み取りを連動させながら、それぞれの場面の様子について想像を広げながら読むことができるようにする。会話や様子を読み取れない子どもも予想されるので、くじらぐもと先生やみんなの動作や会話を上段と下段に分けた教材文を準備し、読みの手助けになるようにする。
- ・ 高める・味わう段階で、発表会に向けての音読練習の場を、朝の読書の時間や家庭学習に取り入れていく。音読を家庭でも聞いてもらうことで、発表会に向けての気持ちを高め、個人で十分に練習時間を取り、自信をもって発表会に臨むことができるようにする。また、グループでの練習を進めたり、友達の読みのよさによく気付く子どもを入れた意図的グルーピングを行い、子ども同士で読みの変化を認め合うようにする。

③ 研究の視点3 (子ども一人一人が読むことを楽しみ、学んだことを生活に広げていく学習の在り方)

- ・ 広げる・まとめる段階で、想像した雲と一緒にしたいことやお話ししたいことを絵やペーパークラフトを使って考えさせることで、想像することの楽しさをより実感させるようにする。「くじらぐもにのってでかけよう」では、深める段階で使った舞台で発表させることで、子どもたちの気持ちを高め、進んで表現できるようにする。また、雲にまつわる他のファンタジー作品や、雲に関する本、中川李枝子さんの作品など紹介し、豊かな読書生活につなげるようにする。

4 指導計画(全13時間)

は評価項目及び評価方法

は研究の視点に関する内容(◇は視点1, ◆は視点2, ◇は視点3)

過程	時間	主な学習活動	教師の指導
つかむ	3	1 外に出て、雲の様子や動きについて話し合う。	<p>「何に似ている雲か」という投げかけをして、雲の形から空想を広げさせ、発表できるようにする。</p> <p>雲の形から想像を広げ、意欲的に学習に取り組もうとしているか。</p> <p>(発表・観察)【国語への関心・意欲・態度】</p> <p>話の筋や印象に残った場面を見つけやすいように挿絵を活用する。</p> <p>◇ 単元の最後で「くじらぐもにのってでかけよう」を行うことを知らせ、本単元の目的意識をもちながら読み進めることができるようにする。</p>
		2 題名から話の内容を想像した後、教材文「くじらぐも」を読み、印象に残った場面について話し合う。	
深める	5	3 新出漢字や片仮名の練習をする。	<p>◆ 子どもたちとくものくじらの位置関係を押さえたり役割読みをさせたりすることで、声の大きさや速さなどに気付かせて読むことができるようにする。</p> <p>場面の様子がわかるように、会話文や繰り返しの表現に付き、声の大きさや速さなどを考えて読むことができたか。(発表・音読)【読む能力】</p> <p>◇ 主述の関係や助詞の「も」「が」の使い方に着目し、音読や動作化をすることで、場面の様子や登場人物の気持ちを想像することができるようにする。</p> <p>叙述を基に、動作化や吹き出しを取り入れ、場面の様子や登場人物の気持ちを想像を広げながら読むことができたか。(ワークシート、動作)【読むこと】</p> <p>主述の関係や文中の助詞「も」の使い方に着目して、場面を読み取ることができたか。</p> <p>(発言・動作)【言語についての知識・理解・技能】</p> <p>◇ 吹き出しに書いたことを交流することで、自分の考えに自信をもち発表できるようにする。さらに、友達の考えのよさや自分との違いを感じさせ、読みを深めていくことができるようにする。</p> <p>◇ 場面の様子や登場人物の気持ちが伝わるような音読の仕方ができるように、一人一人の読みの変化を認め、称賛する。また、互いの発表を聞くことで、友達の読みの工夫や表現のよさに付き、そのよさを発表できるようにする。</p>
		4 感想を基に、学習のめあてや学習計画を立てる。	
		くじらぐもにのってでかけよう。	
		5 物語のおもしろさを味わいながら、教材文「くじらぐも」を読む。	
味高める	2	子どもたちと一緒に体操するくものくじら	<p>友達読みの工夫や表現のよさに付き、感想を交流することができたか。(発表)【読む能力】</p> <p>◇ 想像した雲と一緒にしたいことやお話ししたいことを考えさせることで、楽しく想像を膨らませることができるようにする。</p> <p>楽しく想像を膨らませながら、あったらいいなと思う雲を絵と文で表すことができる。</p> <p>(観察・作品)【書く能力】</p> <p>◇ 楽しかったことやお礼など、複数の視点を与え、くじらぐもに手紙を書くことができるようにする。</p>
		呼びかけあう子どもたちとくものくじら	
ま広げめる	3	くものくじらに飛び乗る子どもたち	<p>◇ 楽しかったことやお礼など、複数の視点を与え、くじらぐもに手紙を書くことができるようにする。</p>
		くものくじらと子どもたちの旅	
		くじらぐもと子どもたちとの別れ	
味高める	2	6 グループ毎に音読発表会の練習をし、発表会を開く。	<p>友達読みの工夫や表現のよさに付き、感想を交流することができたか。(発表)【読む能力】</p> <p>◇ 想像した雲と一緒にしたいことやお話ししたいことを考えさせることで、楽しく想像を膨らませることができるようにする。</p> <p>楽しく想像を膨らませながら、あったらいいなと思う雲を絵と文で表すことができる。</p> <p>(観察・作品)【書く能力】</p> <p>◇ 楽しかったことやお礼など、複数の視点を与え、くじらぐもに手紙を書くことができるようにする。</p>
		7 自分の見つけた雲や会ってみたい雲などを絵に描いたり、話を作ったりする。	
味高める	2	8 「くじらぐもにのってでかけよう」を開く。	<p>友達読みの工夫や表現のよさに付き、感想を交流することができたか。(発表)【読む能力】</p> <p>◇ 想像した雲と一緒にしたいことやお話ししたいことを考えさせることで、楽しく想像を膨らませることができるようにする。</p> <p>楽しく想像を膨らませながら、あったらいいなと思う雲を絵と文で表すことができる。</p> <p>(観察・作品)【書く能力】</p> <p>◇ 楽しかったことやお礼など、複数の視点を与え、くじらぐもに手紙を書くことができるようにする。</p>
		9 話を振り返り、「くじらぐも」に手紙を書く。	

5 本時(6/13)

- (1) 目標 くものくじらに飛び乗ろうとする子どもたちとくものくじらの様子や気持ちを読み取ることができる。
 (2) 展開 教師の言葉かけ 予想される子どもの反応 重点評価項目 個に応じた支援
 は、研究の視点に基づく指導・支援(◇は視点2)

過程	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導
つ か む	<p>1 前時までの学習を想起する。 くものくじらは、何と言って子どもたちを空に誘いましたか。 「ここへおいでよう」と言いました。</p> <p>誘われた子どもたちは、何と言いましたか。 「よしきた。くものくじらにとびのろう。」</p> <p>2 学習課題を確認する。 くものくじらにのるために、どんなジャンプをしたのだろう。</p>	<p>くものくじらに飛び乗ろうとはりきっている子どもたちの様子について確認することで、本時の読みにつなげていけるようにする。その際、子どもたちとくものくじらの位置関係も確認し、お互いに呼びかけ合う様子を想起できるようにする。</p>
(5)	<p>3 全員で学習範囲を声に出して読む。</p> <p>4 子どもたちがくものくじらに飛び乗るまでの様子を読み取る。 子どもたちは、くものくじらに飛び乗るためにどんなことをしましたか。 手をつないで、まるいわになりました。ジャンプして、かけ声もかけました。</p>	<p>子どもたちとくものくじらの行動や会話文を手がかりにしなが課題解決していくことを確認する。</p> <p>◇ 会話文に着目させ、みんなが力を合わせてくじらぐもに飛び乗ろうとしている様子や気持ちを読み取ることができるようにする。</p> <p>◇ 「天までとどけ、一、二、三。」の繰り返しに気付け、回を重ねる毎にくものくじらに飛び乗りたいという子どもたちの気持ちの高まりを想像することができるようにする。また、くものくじらが子どもたちを応援する気持ちの高まりも想像し、工夫した読みができるようにする。</p>
深 め る	<p>どんなかけ声をかけましたか。すぐに、くものくじらに飛び乗れましたか。 「天までとどけ、一、二、三。」と言いました。3回も言いました。</p> <p>みんなで、「天までとどけ、一、二、三。」と読んでみましょう。同じ言葉が、3回続きますね。 だんだん大きな声になっていくと思います。くものくじらも応援してくれているからです。今度こそ飛び乗るぞ。</p>	<p>くものくじらに飛び乗ろうとする子どもたちとくものくじらの様子や気持ちを読み取ることができたか。(動作化・音読)【読む能力】</p> <p>子どもたちやくものくじらの様子や気持ちを読み取れている子ども くものくじらに飛び乗ろうとする子どもたちの気持ちの高まりや応援するくものくじらの気持ちを動作化や声の大きさで表現し、音読することができるようにする。</p>
(23)	<p>子どもたちは、どんなことを思いながら3回目にジャンプしたのでしょうか。 風がみんなを空へふきとばしました。手をつないだまま、くものくじらにのりました。</p>	<p>子どもたちやくものくじらの様子や気持ちを読み取れていない子ども 子どもたちかくものくじらのどちらかの様子や会話文に着目し、教師やグループの子どもたちと動作化することで、様子や気持ちを読み取ることができるようにする。</p>
味高 わめ うる	<p>3回目にジャンプしたとき、どんなことが起こりましたか。</p> <p>5 動作化と読み方を工夫しながら、グループで読む練習をする。 子どもたちやくものくじらの気持ちが伝わるように、グループで読んでみましょう。</p>	<p>◇ つかむ過程での音読とまとめる過程での音読の違いを比べ、工夫したことよさに気付くことができるようにする。</p>
ま と め る	<p>6 本時の学習を振り返り、学習のまとめをする。 みんなはどんな気持ちで、くものくじらに飛び乗ろうとしていたと思いますか。 くじらさん、待っていてね。がんばって乗るぞ。</p> <p>お話の子どもたちの気持ちになって、みんなでくものくじらに飛び乗りましょう。</p> <p>7 次時の学習を確認する。</p>	<p>◇ 本時の学習を振り返らせ、動作化を取り入れることで、くものくじらに飛び乗る子どもたちの気持ち分かるような音読ができるようにする。</p>